

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) ソフトウェアアーキテクチャ	高木英行 准教授	ウォータフォールモデルを例に、ユーザ要求仕様、システム設計、ソフトウェア設計、レビュー、コーディング、単体/結合テスト等のソフトウェア開発の流れと各工程の手法とソフトウェア品質の重要性を理解する。	学部2年生以上	プログラミング言語の履修を済ませていることが望ましい	特になし	2	後学期 月曜日3時限	10月3日	第15週目 未定 平成24年2月6日又は2月13日の予定
	《大橋キャンパス》 (芸術工学部) メディア情報処理・演習	高木英行 准教授 竹田仰 教授 吉永幸靖 助教	1. 信号処理の基礎、音声・音響信号処理、ファイルとデータ圧縮 2. 「情報の流れ」の基本をマスターし、工学分野と医学分野と芸術分野の関連を理解 3. 図形の変換と描画処理などについて、3人の教員が分担して講義と演習(プログラミング)を行う	学部3年生以上	芸術情報プログラミング言語・演習などプログラミングの基礎の科目は習得済みの事	演習用PCの上 限数まで	2	前学期 火曜日4・5時限	4月12日	小テスト等で成績評価を行い、期末試験は行わない
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 近代日本の形成と構造(近代日本の政治と社会)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	Matthew Augustine講師	本授業では近現代、とりわけ第二次世界大戦以降の日本と東アジアの歴史において、以下のテーマに焦点を当てる: (1)戦後東アジアのなかの日本史(2)戦争と記憶(3)米軍占領と基地(4)日本の国際史 各テーマの歴史的な分析を試みることにより、戦後日本と東アジアの関連を検討する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 近代日本の形成と構造(日本前近代・近代移行論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	吉田昌彦 教授	前近代から近代への移行を検討する際に重要なテーマになるNationもしくはNation Stateの形成についてアンダーソンやスミスなどの基本的文献や日本における研究文献を読み、今日のNationalism論の諸動向を把握することとする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 現代日本の形成と変容(日本社会と科学技術)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	吉岡 斉 教授	近現代日本の科学技術と社会に関連する文献(日本語、英語)を素材として、発表と討論を行う。原則として1冊のテキストを学生1人が担当し、1冊あたり2~3回程度のセッションを実施する。学生全員が毎学期発表できるようにする。取り上げるテキストについては、学生の多様な興味を尊重しつつ、学生と教員が協議して決める。目標は、近現代日本の科学技術の社会史という領域における基礎知識の習得と、この領域で語られる言説を批判的に吟味する能力を養うことに置く。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 現代日本の形成と変容(情報社会論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	杉山あかし 准教授	情報社会論に関する文献(主に英語)を取り上げ、講読と議論を行う。何をとり上げるかについては学生と協議して決める。1時間あたり学術論文1本程度の分量を読み進むこととした。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 現代日本の形成と変容(現代社会の構造)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	直野草子 准教授	現代社会文化理論(言語分析、記憶論、ポストコロニアル理論、フェミニズム、イデオロギー論など)を参照しつつ、「差異」「不平等」「暴力」などをキーワードにしながら、現代社会について考察する。セミナーでは、日本語・英語の学術書籍や論文を読み込みながら、ディスカッションしていく。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語と文芸(日本近代文学)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	波瀾 剛 准教授	近年の文学理論の動向をふまえて、「越境」という視点から、近代文学のテキスト読解を試みる。具体的な文献に関しては学期のはじめに決める。学生各自が論文作成の基礎となる方法や概念、執筆の手がかりとなる視点を得る機会とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語と文芸(日本現代文学) I・II・III・IV	松本常彦 教授	注釈による日本近代文学作品の読解。 今年度から四年計画で、戦時下の福岡を描いた作品の全注釈を完成する計画。 研究誌(「九大日文」など)に注釈の成果を継続的に掲載する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語と文芸(比較文学) I・II・III・IV	西野常夫 准教授	題目 文学研究動向研究 学会誌(「日本近代文学」「比較文学」その他・主な使用言語)掲載の諸論文を読む。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 法と思想(現代人権論) I・II・III・IV	施 光恒 准教授	前期・後期ともに、リベラリズム(自由と人権、平等、民主主義など)、あるいは、ナショナリズム(国民国家やナショナル・アイデンティティの形成などの現象やそれらを取り巻く諸理念)に関する政治理論的・哲学的文献を読み進めていく。 前期は日本語の文献を、後期は英語の文献を、主に用いる。政治理論の基本概念を使った議論や考察ができるようになることが目標である。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 法と思想(日本政治思想史) I・II・III・IV	清水靖久 教授	日本政治思想史の重要文献を読みながら、政治思想の諸問題について考え、論じあう。何を読むかは、参加者の関心に応じて決める。日本の政治と思想の歴史を理解すること、文献を読んで考える力、論じる力を身につけることを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地域の構造と政策(産業地域政策論) I・II・III・IV	阿部康久 准教授	主に経済地理学の分野を中心に、受講者にとっての母語以外の言語(ただし、日本語、英語、中国語のうちどれか)で書かれた文献を選び、内容を紹介してもらう。講読する文献は、受講者の希望に合わせるが、もし希望がない場合は NEIL M. Coe, Philip F. Kelly and Henry W.C. Yeung: 2007. ECONOMIC GEOGRAPHY. を輪読することも考えている。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地域の構造と政策(都市政策論) I・II・III・IV	山下 潤 准教授	地域構造に留意し、都市の持続可能性に着目した、各種の都市構造・政策や都市解析や都市政策策定支援ツールに関する文献を用いて、演習形式で授業をすすめる。授業を通じて、都市の現状と都市政策・計画理論ならびに都市解析・都市政策支援ツールに関する理解を深めることを目的とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地域の歴史と社会(近世地域社会史論) I・II・III・IV	高野信治 教授	近世日本の国制と社会構造を、地域を射程にいれながらトータルに検討することを目標とする。具体的な方向・内容は参加者と話し合いながら決めてゆきたいが、基本的には話題性のある問題提起的な論文や史料などを、方向性(テーマ)にしたがって選択し講読、議論を進めることになる。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地域の歴史と社会(都市化と地域集団) I・II・III・IV	三隅一百 教授	各種の統計資料、制度・政策資料、メディア記事、既存の社会調査資料などの二次資料を活用して、二次分析の方法論を展開しながら、地域の特性と変動過程を比較分析する。I・IIIでは資料探索と分析視点を中心に議論し、II・IVでは分析法と実際の分析を中心に進める。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 先史集団論 I・II・III・IV	田中良之 教授	考古資料として人骨を用いるための基礎的知識と方法を講義・演習形式で習得させる。具体的な人骨の調査事例を取り上げながら、そこからいかにして考古学的・歴史的情報を引き出しうるのかを毎回議論する。それによって、人骨を考古資料として活用する理論的背景と方法の基礎的理解を理解し、骨考古学の文献を批判的に読解できるようにする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による		

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 社会考古学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	溝口孝司 准教授	考古資料を遺した過去の人々の社会、それを分析・研究し、それについてコミュニケーションする今日の我々の社会。これら＜社会＞に照準して、個人々の思考・行為と＜社会＞との関係性を、考古学という学的領域においていかに探求可能か？本ゼミでは、このことについて、オリジナル講義とディスカッションを通じて深め、身につけてゆく。講義・ディスカッションは基本的に英語でおこなうが、必要な場合には、日本語で補足し、理解の助けとする場合もある。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 環境と人類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	佐藤麻也 准教授	文化・行動地理学、文化生態学、行動生態学、生態人類学を中心とする諸分野の文献を題材とし、人間社会の動態を環境適応との関係において把握する方法を学ぶ。具体的なテーマとしては、生業社会の食糧獲得活動、集落動態、人口生態学、親族と婚姻、攻撃性と戦い、性差、文化の伝達、遊動と定住化などの問題を順次とりあげ、人間行動をより基層的な部分から理解することをめざす。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 自然人類学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	中橋孝博 教授	生物としての人間を研究対象とする自然人類学の立場から、化石や出土古人骨をもとに、人間の起源や進化、あるいはヒトと社会や自然との関わり合い等に関して考察を加える。毎回、論文一本程度の分量を読みこなし、新知見の学習と同時にその内容をわかりやすく発表する方法、技術の習熟を目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 階級社会形成論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	岩永省三 教授	階級社会形成に関わる以下の諸問題①～③に関わる重要文献を精読する。 ①理論的問題 ②日本における階級社会形成過程の具体的様相 ③古代都市論	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 歴史資料学(記録史料論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	中野 等 教授	歴史学研究の基本である史料操作を実践する。地域に遺る歴史資料(くずし字で書かれた原史料や資料集などのかたちで活字化されたもの)を対象として具体的な分析をおこない、史料分析のスキルを身につけていくと同時に日本の近世社会の特質について究明していく。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 歴史資料学(資料解析論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	服部英雄 教授	歴史はさまざまな資料(史料)から構成される。文献、考古史料、地名、気象、地形、など人間が残したものと、歴史状況など、あらゆるものが手掛かりになる。その逐一を吟味し、批判して史料として生かしていく。その方法論をとともに学びたい。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 自然資料学(生物資料解析論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	楠見淳子 講師	分子系統学はDNA等の分子に蓄積された情報の解析から生物の進化、多様化してきた道筋を理解する学問である。ここでは、その解析に必要な分子進化学の基礎、系統樹推定の統計的手法の習得を目標とし、実習を交えて講義を進める。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 自然資料学(生物資料解析論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	三島美佐子 准教授	種生物学は、生物に蓄積された様々な生物学的バックグラウンドの解析から、生物が分化・多様化してきた道筋を理解する学問である。ここでは、その解析に必要な種生物学の基礎、地理的分析手法の習得を目標とし、実習を交えて講義を進める。授業をとおして、プレゼンテーションおよび科学コミュニケーションのスキルアップも図る。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 自然資料学(地殻物質解析論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	小山内康人 教授	各種鉱物およびそれらから構成される岩石のもつ様々な自然情報を、正確・精密に収集・解析する能力を習得することを目的とする。前期には、記載分類法・情報収集法・先端的機器分析法などについて講義し、文献紹介等で最新の知見を習得する。後期には、野外調査・分析試料作成・機器分析・データ解析を実習する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による		

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	≪伊都キャンパス≫ (比較社会文化学府) 自然資料学(生物資料情報論) I・II・III・IV	館 卓司 講師	節足動物は地球上のほとんどの場所で見られ、形態的にも生態的にも多様に富んでいるグループの一つである。特に、ほとんどの昆虫類は陸上生活に適応している。この授業では、昆虫類を中心に節足動物の分類・系統に関して理解することを目的とする。形態の基本構造、相同性の決定や塩基配列のアライメントなど系統推定に関する基本的知識や分子進化に関する方法論を学習する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	≪伊都キャンパス≫ (比較社会文化学府) 産業経済論(産業政策分析) I・II・III・IV	堀井伸浩 准教授	前期: 授業の前半において産業経済論の概要について教員が講義を行い、それを踏まえて、後半においては履修者がそれぞれ個別具体的な産業を選択し、産業経済論、特に産業組織論の分析枠組みに沿ってその産業に関する分析を行う演習方式で授業を進める。演習で分析するのは中国の産業であるが、日本を始めとする外国との比較を通じて客観的な分析を行う。講義を聞くだけでなく、自ら資料を渉猟し、データをまとめてプレゼンテーションする必要があるため、積極的な授業への参加態度を求める。 後期: 世界各国の産業構造を規定する諸要因、また中国の経済発展に伴う産業構造の変容について、文献を輪読して理解を進める。具体的には、①Paul Gregory and Robert Stuart [2004] Comparative Economic Systems in the Twenty-first Century, Boston: Houghton Mifflin Company、②岩崎一郎・鈴木拓 [2010]『比較経済分析—市場経済化と国家の役割』ミネルヴァ書房、③中兼和津次 [2010]『体制移行の政治経済学—なぜ社会主義国は資本主義に向かって脱走するのか』名古屋大学出版会などの文献を想定している。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	≪伊都キャンパス≫ (比較社会文化学府) 産業経済論(経済構造分析) I・II・III・IV	関 源太郎 教授	★授業の概要: 前期—市場経済社会の形成以来、経済学が育んできた経済学的思考を欧米の主要な経済学者の学説の再構成を通じて検証する。特に焦点が当てられるのは、彼らが当面した歴史的問題をいかに思想的・理論的に打開しようとしたか、こうした営為がいかなる学説史的意義を持つかという点である。 後期—「学的体系」としての経済学は18世紀のスコットランドで誕生したと言われていた。その「経済学」の哲学的基礎を18世紀のスコットランドの「哲学」の展開のなかに探り、社会科学としての「経済学」の意味について再考する。 ★授業計画: 前期—1. 授業のガイド 2~3. 重商主義と重農主義 4~6. 古典派 7~8. 歴史学派 9~10. 新古典派 11~13. 20世紀の経済学 14. 授業のまとめ 後期—1. 授業のガイド 2~5. 啓蒙期への導入: G.カーマイケル、G.ターンプル、F.ハチスン 6~8. D.ヒューム、9~11. A.スミス、12~14. コモンセンス派: H.ケイムズ、T.リード、D.ステュアート、15. まとめ ★学習目標: 前期—経済学的思考の多様性とその歴史的意味を理解する。 後期—「経済学」の哲学的基礎を再考し「経済学」研究の意義を確かめる。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	≪伊都キャンパス≫ (比較社会文化学府) 産業経済論(産業経済分析) I・II・III・IV	北澤 満 准教授	近現代日本の産業史・経済史に関する基礎的な文献を輪読する。当該期における経済構造、産業構造全般の理解を目標とする。 また、史料収集、およびその解釈についても、適宜実習を行っていく予定である。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 比較考古学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	辻田淳一郎 准教授	日本列島の弥生～古墳時代社会を理解する視点を獲得することを目的として、欧米の考古学・人類学の研究成果を検討する。同時に、それを通じて考古学を含めた人文・社会科学全般における同時代的学問状況と問題意識についても理解を深める。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 東アジア考古学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	宮本一夫 教授	2010年度に出版された中国語、韓国語、英語、ロシア語などの外国学術雑誌や書籍を読み、その内容を紹介するとともに、学史的な位置づけを行う。このことにより、その専門分野における研究上の問題設定を可能としよう。対象分野は東アジアの先史から古代にかけてである。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地域産業発展論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	宮地英敏 准教授	戦後日本の高度経済成長期を対象として、生産現場の様子、都市や農村の変化、景気循環、財政金融政策、産業政策、通貨危機と石油危機による高度成長の終焉などに関してテキストを読み進めていく予定である。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 産業経済論(資源・エネルギー問題、環境問題)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	三輪宗弘 教授	①先行研究(経営史、戦時経済)を批判的に読み、一次資料から如何に論文を組み立てていくのかという点を学び修得する。問題の所在をつかみ、自己の研究の問題点を明確にする。 ②経済史でよく使われるデータの分析に優れた論文を取り上げ、その手法を学習する。 ③論文を書く能力を高めるために、小論文の添削指導(400×5枚 2回全員提出)を行なう。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 日本語教育学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	志水俊広 准教授	第二言語習得研究に関する文献を取り上げ、講読と議論を行う。第二言語習得研究の立場から見た日本語教育を主に対象とするが、必ずしも日本語教育に限定せず、この分野の研究が進んでいる英語教育・英語学習についても適宜触れていく。海外で出版された文献も活用できるように、英語の読解力があることが望ましい。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 日本語対照言語学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	松村瑞子 教授	日本語対照言語学(談話分析、語用論、社会言語学、ジェンダー論、認知言語学)の何れかに焦点を絞って、対照言語学の方法論を学んでいく。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 日本語言語学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	山村ひろみ 教授	日本語の諸現象を観察しながら、日本語の言語学的見方とは何か、を考えていきたいと思えます。授業では、事前に用意された論文を批判的に読む訓練をすると同時に、レポート・論文作成時の基本的事項、発表時に必要なハンドアウト等の作成の仕方などを確認していこうと思えます。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 日本語対照言語学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	西山 猛 准教授	日本語と中国語の対照研究分野の論文を講読し、討論する。講読する論文での使用言語は日本語及び中国語。討論で使用する言語は日本語とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 多文化関係論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	松永典子 教授	異文化間の接触、対人関係の構築に関わる諸問題について歴史的観点、教育の現場の議論も踏まえつつ検討する。 文献(研究論文)を単にまとめるだけでなく、関係する資料・先行研究を調べ、精査していくことにより、当該分野における、その研究の研究意義・研究の位置づけ・研究上の問題点等について指摘できるようになることを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 東アジア文化論(中国文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	長谷千代子 講師	現代中国文化について、前期は「宗教」、後期は「民族」の観点から講義する。漢族文化や社会主義の政治文化といった焦点化されやすいテーマとは敢えて異なる地点に立ち、中国文化をより複眼的に捉えることを試みる。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 東アジア文化論(中国古典文学)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	東 英寿 教授	中国古典文学に関する文献(中国語)を取り上げ、講読と議論を行う。1回の授業で学術論文1本程度の分量を読み進むこととした。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) アジア民族社会論(東アジアの国際関係)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	益尾知佐子 准教授	戦後から現在に至る東アジア国際関係について、主に政治・外交・安全保障といった側面から考察する。 授業にあたっては、毎回1、2本の論文(英語・日本語、場合によって中国語)を取り上げて担当者に報告してもらい、すべての参加者の間で議論を行う。また必要に応じて教員が問題の背景を説明する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 文化人類学(理論と実践)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	太田好信 教授	ゼミでは、米国在住の文化人類学者マイケル・タウングが提唱する諸概念のいくつかについて理解を深める。どのような問題に関心をもち、今日のおける彼の思考の重要性を確認しながら、難解ではあるかもしれないが、彼の文化人類学的思考を代表する初期から中期にかけてのテキストを選び、講読する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 国際社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	松井康浩 教授	国際社会を理解し分析するための基本理論を学び、かつ、国際関係理論の近年の動向を把握することを目標として、当該分野にかかわる各種の著作や論文を読み進める。前期は、基礎的な国際関係理論の理解に努め、後期は、最新の理論動向を中心に検討する。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 国際関係論(中東・イスラム地域研究)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	山尾 大 講師	中東政治の歴史、および中東政治学の必読文献を中心に輪読することで、中東政治の基本的な構造と議論を学ぶことを目的とする。また、中東政治分析において重要なファクターとなるイスラム主義運動についても、分析を行う。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) ヨーロッパ社会論(ドイツ啓蒙主義)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	嶋田洋一郎 教授	「民謡」(Volsk lied) というドイツ語を初めて使用したとされるドイツの思想家ヘルダーを扱う。ただしヘルダーはVolsk liedをPopular Songのドイツ語訳として考えており、したがってヘルダーの考える「民謡」はかなり幅の広いものである。本演習ではこの「民謡」に関するヘルダーの著作を、近代ドイツの国民意識の発生との関連において読むことにしたい。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 文化人類学(ラテンアメリカの文化と社会)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	古谷嘉章 教授	英語(あるいは日本語)の人類学関係の著作・論文を読むことによって、人類学的な思考プロセスを体験する。本年度前期は、英語の入門的テキストを使用するので専門外の学生も歓迎する。詳細は、古谷演習のwebsite(URL: http://www.scs.kyushu-u.ac.jp/~furuya/furuyazemi1.html)を事前(少なくとも3月初旬)に参照してください。(尚、このゼミは題目と裏腹に、ラテンアメリカのことを勉強するわけではありません)	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 現代思想論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	鍋木政彦 准教授	近現代における日本思想を代表するテキスト(毎回30頁ほど)を読み進める。各学期、3名ほどの思想家を選ぶ予定。(前期は啓蒙派、後期は保守派を計画している。)授業は毎回、全員によるテキスト読解の成果発表と討論によって進める。日本思想の知識を身に着けると共に、日本語による討論技術の向上が目標である。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 近代思想論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	根井 豊 教授	フランス語の原典講読を通して、近代或いは現代の哲学の諸問題を考察していく。テキストとして何を選ぶかは、受講生と相談して決める。参考までに、昨年度は、デカルトの『情念論』の講読を通して、知性や意志が関わる領域とは異なる、情緒や感情の領域の問題について受講生と議論をしながら考察を進めた。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 比較思想論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	新島龍美 准教授	道徳的实在論に関する文献を取り上げ、講読と議論を行なう。題材については学生と相談して決定する。哲学の学術論文を読みこなすための能力と知識の修得を目指す。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 生物圏環境学(群集レベルの環境生物学)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	阿部芳久 教授	群集の構造と機能について学習する。群集や個体群レベルの生態学ならびに群集の構成要素を認識するため系統分類学に関連した文献を読むことにより授業を進め、これら環境関連の学問への理解を深めることが目標である。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 生物圏環境学(種レベルの環境生物学)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	荒谷邦雄 教授	種レベルの生物多様性に関して、1)実態把握(分類学、系統学)、2)創出機構の解明(進化学、生物地理学)、3)維持機構の解明(行動学、生態学)、4)保全(保全生物学)の4つの観点にたった総合的なアプローチを試み、環境と生物種の関わりについて理解を深める。具体的な題材として主に昆虫を例に講義を進める。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 岩石圏環境学(環境鉱物学)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	桑原義博 准教授	地球表層で起こっている「鉱物-水-大気-生命相互作用」について、それらに関する英文テキスト、論文を輪読あるいは発表し、「鉱物-水-大気-生命相互作用」に関する基礎知識を深めるとともに、英文の読解と表現、およびプレゼンテーション能力を身につける。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月11日 Ⅱ・Ⅳは10月1日	各教員による

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 岩石圏環境学(堆積環境論) I・II・III・IV	狩野彰宏 教授	地球史を通じた生物進化と地球環境の関連性を理解し、研究課題の立案・遂行能力を身につけるために、英語の論文や教科書を輪読する。また、実践的な知識を習得するための野外実習を行う。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者	若干名 ただし九州大学大学院比文学府院生を優先し、余裕がある場合のみ受け入れる。	各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 岩石圏環境学(岩石圏物質科学) I・II・III・IV	石田清隆 准教授	I 岩石圏は主に硅素と酸素の四面体を骨格とした結晶(珪酸塩鉱物)からなるので、まず、結晶学の基礎を講義する。内容は、結晶の対称性、点群、空間群、逆格子、X線、電子線、中性子線回折法による結晶構造解析の原理。 II 主要造岩鉱物の結晶構造は地球深部の温度圧力条件に応じて変化する。カンラン石、角閃石、雲母等を取り上げてそれらの結晶化学を講義する。 III 鉱物合成法と結晶構造解析法の講義と実験。 IV 研究テーマに沿った論文紹介や、ゼミ形式による発表および討論。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 環境基礎論 I・II・III・IV	大野正夫 准教授	地球の環境(地磁気・地球回転等も含む)の変動に関連する、地球物理学、地球化学、もしくは天文学の分野の講義および文献(主に英文)の講読。内容については最初の講義の際に相談する。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 環境物質論 I・II・III・IV	北 逸郎 教授	人間を取り巻く環境物質のグローバルな分布やその環境問題を、地球化学の知識に基づき、大気圏を含めた地球内の元素循環の一環として捉えることの出来る研究者と科学技術者の養成を目的として、最近のトピックスを含めた次の授業と演習等を行う。 1) 地球化学や環境化学に基づく環境物質に関する講義 2) 授業内容に関係した演習や小テスト	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 比較国家論 I・II・III・IV	岡崎晴輝 教授	前期:「政治改革」期の一次史料を読む。 後期:現代日本政治に関する英語論文を読む。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 政治社会論(政治理論) I・II・III・IV	大河原伸夫 教授	政治学の重要な英語文献を取り上げ、翻訳を行いつつ内容についてのディスカッションを行う。(毎回、各自が担当部分を翻訳する。)何を取り上げるかについては、受講者と協議して決める。この分野の学術論文を読みこなすための能力と知識を修得することを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 森林環境保全学 I・II・III・IV	百村 帝彦 准教授	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 地水環境保全学 I・II・III・IV	黒澤 靖 教授	前期は、地下水の水質汚染(主にヒ素汚染、無機能窒素による汚染)や土壌保全に関して講義を行い、後期は地水環境保全学に関する文献(主に英語)を取り上げ、講読と議論を行なう。地水環境保全学に関する高度な知識を習得し、かつこの分野の学術論文が読みこなせるようになることを目標とする。	修士学生	授業担当教員の内諾及び所属長の許可のある者		各2	未定 詳細は九州大学比較社会文化学府等事務部大学院係に確認すること	I・IIIは4月11日 II・IVは10月1日	各教員による

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 社会言語論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	小谷耕二 教授	アメリカ文学作品の読解をとおして、社会と言語のかかわりを多面的に考察する。 今年度は Faulknerの代表作のひとつ Go Down, Mosesを取りあげる。毎回、20頁前後進む予定。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者	若干名 ただし 九州大 学大学 院比文 学院院 生を優 先し、 余裕が ある場 合のみ 受け入 れる。	各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語情報処理論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ	李 相穆 准教授	言語研究のための言語データの収集及び分析方法を習得することを目標とする。 具体的にはアンケート・ウェブページ・ウェブフォームからの言語データ収集、分析、 統計処理などの手法について講義を行う。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 比較言語文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ	高橋 勤 教授	「野性の文化」をテーマとして、ヘンリー・ソーヤゲリー・スナイダーのテキストを 輪読する。人類学的なアプローチとしてではなく、より文学的に、自然と文化の根源 的な関係について考える。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 言語コミュニケーション論Ⅰ・ Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	井上奈良彦 教授	言語とコミュニケーションに関連する文献を読み研究を概観する。また、スピーチや ディベートの実践練習や指導方法の検討を行う場合もある。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) アジア言語文化論(現代中 国言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	秋吉 收 准教授	現代中国の文献を精読することを通して、中国近現代における歴史や文学の諸問 題について考察する。日本と中国を双方向から照射するために、教材として、日中 比較文学、魯迅等に関する文献を取り上げていく。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) アジア言語文化論(東アジア 比較言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ	松原孝俊 教授	(1) 植民地朝鮮半島研究: 崔承喜+植民地文化空間+消費文化+メディアなどを 多様な観点から論じます。 (2) An introduction to some of the current issues in modern Korean history through selected readings. (3) 国内外で発表された語彙論を取り扱った各種論文を説明しながら、似ていなが ら異なる日韓両言語についての対照研究手法を学ぶ。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) 英米言語文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ	太田一昭 教授	カズオ・イシグロのThe Remains of the Dayを読みます。イギリスの貴族に仕えるバ トラー(執事)を描いた、プッカー賞受賞作品。これを原典で味読します。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) ヨーロッパ言語文化論(フラン ス言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ Ⅳ	阿尾安泰 教授	フランスの第2次世界大戦後の思想、特に構造主義以降の思想に関する文献を取り 上げ、講読と議論を行う。現代思考がいかなる条件のもとに成立したのか、そしてそ れがどのような方向を志向しているのか考えていく。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる
	《伊都キャンパス》 (比較社会文化学府) ヨーロッパ言語文化論(ドイ ツ言語文化論)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	福元圭太 教授	主に世紀転換期(19世紀から20世紀への)から第一次世界大戦、両戦間期にいた るまでのドイツ語圏における思想・文学特にトーマス・マンのテキストから、いくつか の重要なテキストを取り上げ、講読と議論を行う。合理性と非合理性がせめぎ合う様 相を観察し、ドイツ的なるものの一側面を照射してみたい。	修士 学生	授業担当教員の内諾 及び所属長の許可の ある者		各2	未定 詳細は九州大学比 較社会文化学府等 事務部大学院係に 確認すること	Ⅰ・Ⅲは4月 11日 Ⅱ・Ⅳは10 月1日	各教員に よる

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学	《箱崎キャンパス》 (法学府) 比較法研究第二(博士) 比較法特講第二(修士)	遠藤歩 准教授	ドイツ語外書講読。ドイツ民法に関する文献を輪読します。	修士、博士	ドイツ語の初歩的な文法を理解していること。	10名程度	2	前期火曜日4限	4月11日(月)	未定
	《大橋キャンパス》 (芸術工学府) 知能情報学特論	高木英行 准教授	進化論的計算、ニューラルネットワーク、ファジィ推論システムの3技術を中心に、その他、知識工学と人工生命を加えた知能情報学の要素技術とその応用例を教科書および配付資料に基づいて学ぶ。	大学院生	デザイン人間科学国際コース学生が履修した場合は英語での授業になるので、その場合は英語で聴講できる語学力が必要	特になし	2	毎週開講	前学期	第15週目
	《箱崎キャンパス》 (システム生命科学府) 生命情報工学通論	内田 誠一 教授 久原 哲 教授 岡本正宏 教授 田代 康介 准教授	生命科学系の大学院生にとって有用な生命情報・生命工学系の基礎的な事項(情報、シミュレーション、画像処理など)の概要を理解する。	生命系学部出身大学院生	無し	10	2	平日2コマ連続、毎週、前期前半(4月～6月)箱崎地区で開講	4月13日	授業の進行状況により受講生へ通知する。
	《箱崎キャンパス》 (システム生命科学府) 生命科学通論	仁田坂 英二 助教	生命情報・工学系の大学院生にとって有用な生物およびそれらが構成する生態系のなりたちについて、遺伝子の働きに主眼を置いてマイクロレベル(分子・細胞)からマクロレベル(進化・生態)まで理解する。	情報・工学系学部出身大学院生	無し	10	2	平日2コマ連続、毎週、前期前半(4月～6月)伊都地区で開講	4月12日	授業の進行状況により受講生へ通知する。
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) Asia in today's world Asian Studies Courses (1) 「Japan and the Asia-Pacific in Modern Times」 (AS1101)	See Heng Teow, Ph.D. Associate Professor, Department of History, National University of Singapore	This course aims to provide an understanding of Japan's interest in and approaches to the Asia-Pacific by examining selected themes in Japan's interactions with the Asia-Pacific in modern times, from 1868 to present times. Such themes include imperialism and colonialism, nationalism and internationalism, war and peace, economic and cultural interactions, roles of state and non-governmental actors, and Japan's approaches to Asia-Pacific regionalism	学部1年次以上	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	集中講義(6/23～7/8:箱崎地区)毎日(土日祝、7/1を除く) 2限(10:30～12:00)または3限(13:00～14:30) 90分×15回	6月23日	試験なし
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) Asia in today's world Asian Studies Courses (2) 「Death in Traditional Japanese Literature in the Asian Context」 (AS1102)	Noel J. Pinnington, Ph.D. Associate Professor, Department of East Asian Studies, University of Alizona	This is a survey of the literary treatment of death and killing in the Japanese tradition from the 7th to the 18th centuries. The course is both a chronological introduction to the literary tradition and an investigation of Japanese conceptions of death, with particular attention paid to origins in mainland culture and contrasts with that culture. All materials will be read in English translation.	学部1年次以上	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	集中講義(6/23～7/8:箱崎地区)毎日(土日祝、7/1を除く) 2限(10:30～12:00)または3限(13:00～14:30) 90分×15回	6月23日	試験なし
	《箱崎キャンパス》 (留学生センター) Asia in today's world Asian Studies Courses (3) 「Politics and Society in Japan at a Turning Point」 (AS1103)	Dimitir Vanoverbeke, Ph.D. Faculty of Arts, Katholieke Universiteit Leuven	This course addresses dynamics of politics and society in Asia focusing on Japan in particular. The focus of this course will be on political, legal and social institutions, not only by analyzing how these institutions are shaped today but also addressing them from an historical, cultural, and sociological perspective. Based on an understanding of domestic and bilateral issues, in this course students will also study how Japan is defining its position in Asia by fostering regional cooperation and how Asia as a region is redefining its relation with the US and Europe.	学部1年次以上	英語での授業 TOEFL530以上	若干人	2	集中講義(7/19～8/5:箱崎地区)毎日(土日祝、7/27、8/1を除く) 2限(10:30～12:00)または3限(13:00～14:30) 90分×15回	7月19日	試験なし

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
西南学院大学	新約神学C	須藤 伊知郎	新約神学は、予め伝統的な教義を前提とし旧新約聖書全体に矛盾のない統一的な一つの神学を見出そうとするのではなく、新約聖書独自の神学、さらに新約各文書に見られる多様な諸神学を明らかにしつつその中心的な使信を探究することを目的とする。各文書が成立した状況の中で伝承の担い手、また編集者がイエスの福音に促されて何を選び取りどう行動したかということを歴史的、批判的に検討することを通じて、無時間的普遍的に妥当するいわゆる「真理」ではなく、個別的一回的状況の中へと語られた、受肉した神の言葉を追及する。 本年度前期はF. ハーン『新約聖書神学Ⅰ下』を教科書にして、パウロに依存しないヘレニズム・ユダヤ人キリスト教諸文書の神学的構想、共観福音書と使徒言行録の神学的諸構想、ヨハネ神学を扱う予定。教科書と参考書を輪番で要約発表しクラス全体で討議する。	3年次以上	特になし	最大5名まで	2	週1回 前期 火曜4時限目(15:10~16:40) 90分×15回	4月12日	7月28日 ~ 8月5日 ※日時未定
	音楽C(合奏又は合唱)	渡邊 均	音楽科教育の歌唱指導における教材には斉唱曲(単声)と合唱曲(2声、3声)があり、小学校の中学年以上になると合唱の形が多用されている。したがって指導者は、基礎的なアンサンブル技法を習得しておくことが必要である。総合的にみて発声法や唱法の基本、アンサンブル楽曲の解釈、指揮の基本等、実践を通して表現力や指導法の習得と向上が目的である。 音楽Cは可能ならば器楽アンサンブルを伴う合唱の演習を行なう。個別の演奏の技術的な面にとどまらず、実技の過程で、アンサンブルの方法を重視した学習を行う。可能ならば鍵盤楽器、弦楽器、合唱によるアンサンブルを実施したい。 実技の内容は、初歩的なアンサンブルとして先ず2声(ソプラノ・アルトあるいはテノール・バス)の練習曲を用い、発声と読譜の基礎訓練を行ないながら、ポリフォニー系楽曲を用いアンサンブルの基本を習得する。はじめ2~3声の楽曲を用いるが、演奏の基本が定まるころに並行して、なじみの深い歌曲の編曲作品やゴスペルソングなど、アカペラ(無伴奏)の作品を中心に声楽アンサンブルの醍醐味を感じられる楽曲に取り組みたい。また、参加者自身による演奏を録音し、分析・批評しあいながら指導法について研究していく活動にも取り組みたいと思っている。	2年次以上	特になし	10名程度	1	週1回 前期 木曜4時限目(15:10~16:40) 90分×15回	4月7日	※7月に 実技試験 を予定
	表象メディア論A	栗原 詩子	時間・聴覚に焦点をあてた映画分析論の読解と、映画およびミュージックビデオの分析を、並行して行う。また、学院内で開催されるコンサートを聴取し、繰り返し視聴可能な映画やミュージックビデオのみならず、ライブで上演される時間体験について語る訓練をする。	2年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 前期 金曜1時限目(9:00~10:30) 90分×15回	4月8日	試験なし
	心理学Ⅰ(1)	中村 奈良江	本講義では、心理学の基本的な知識を獲得する事を目標としている。 心理学Ⅰのテーマは、「どうして錯視がおこるのだろうか?」「効率的な記憶術はあるのだろうか?」といった外界の情報の獲得過程や、それらの記憶過程に関する事である。 各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。	1年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 前期 火曜1時限目(9:00~10:30) 90分×15回	4月12日	試験なし
	心理学Ⅱ(1)	中村 奈良江	心理学Ⅱでは、心理学Ⅰで学んだ多くの人に共通する行動特徴の内容から、さらに、発達によってどのように変化して行くのか、個人差の問題や置かれている状況によってどうかかわるのか、集団の場合にはどのようになるのか、といった問題を取り上げる。これらの知識を身につけ実生活の中で応用できる事を到達目標としている。 各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。	1年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 後期 火曜1時限目(9:00~10:30) 90分×15回	9月20日	試験なし

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
西南学院大学	心理学Ⅰ(2)	中村 奈良江	本講義では、心理学の基本的な知識を獲得する事を目標としている。心理学のテーマは、「どうして錯視がおこるのだろうか?」「効率的な記憶術はあるのだろうか?」といった外界の情報の獲得過程や、それらの記憶過程に関する事である。各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。	1年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 前期 月曜5時限目 (16:20~17:50) 90分×15回	4月11日	試験なし
	心理学Ⅱ(2)	中村 奈良江	心理学Ⅱでは、心理学Iで学んだ多くの人に共通する行動特徴の内容から、さらに、発達によってどのように変化して行くのか、個人差の問題や置かれている状況によってどうかわるのか、集団の場合にはどのようになるのか、といった問題を取り上げる。これらの知識を身につけ実生活の中で応用できる事を到達目標としている。各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。	1年次以上	特になし	10名程度	2	週1回 後期 月曜5時限目 (16:20~17:50) 90分×15回	9月26日	試験なし
中村学園大学	食の科学	林 辰美	1.食物の持つ機能の重要性とたんぱく質、脂質、炭水化物の消化・吸収の過程を理解する。 2.生理機能の保持に必要なビタミンとミネラルの働きと欠乏症・過剰症などを理解する。 3.食品に含まれるさまざまな成分の特性を知る。 4.食味(五味・酸・甘・辛・苦・鹹)の概念、食物の味について学習する。 5.生活習慣病、メタボリックシンドロームの予防と食生活について理解する。 6.各自に見合った栄養の目標(食事摂取基準)と食事バランスガイドの活用を理解する。 7.ライフサイクルと食生活について具体的な食事を通して食品の選択能力を身につける。 8.食の重要性を理解する。	1年次以上	特になし	若干人	2	前学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	4月11日	H23.7.29~ H23.8.5 ※授業中に実施の場合もあり
	アジア食文化事情	三堂 徳孝 徳井 教孝	日本人の食文化を構成する要素の起源は中国大陸や朝鮮半島をルーツとしている。日本を含むアジアとは世界の中でどういう位置にあるのか、また各国の食生活の特色、独自性と共通性はどのようなものかを考え理解を深める。 本講義では、東アジアの食の歴史、食材、食事文化、食器食具、食事の作法、そして食文化の国際交流など、様々な角度から解説し、講義を進めていく。	3年次以上	特になし	若干人	2	後学期 月曜4時限 (14:50~16:20) 90分×15回	9月12日	H24.1.24~ H24.1.30 ※授業中に実施の場合もあり
	博多学	占部 賢志	本年度は、博多をベースに関係する周辺地域も視野に入れてテーマを設定する。取り扱う時代は悠久の古代から近代に至る史実であるが、出来るだけ平易に楽しく解説したい。沖ノ島は別としてほかの歴史の舞台には気軽に訪ねることが可能な場所が殆どであるから、実際に足を運んで見聞することを勧める。時間が割ければ、オプションで現地への歴史探訪も出来ればと考えている。時には、受講生による歴史ガイドの発表会なども取り入れる予定である。	1年次以上	特になし	若干人	2	後学期 月曜1時限 (9:00~10:30) 90分×15回	9月12日	H24.1.24~ H24.1.30 ※授業中に実施の場合もあり
	食品流通論	甲斐 諭	・資料、統計、写真を画像で示し、授業内容が視覚的にも理解できるようにする。 ・世界と日本の食品の流通が理解できるようにする。 ・国際貿易理論、需要の価格弾力性や所得弾力性などの経済学理論を用いて講義する。	2年次以上	特になし	若干人	2	後学期 金曜1時限 (9:00~10:30) 又は 金曜2時限 (10:45~12:15) 90分×15回	9月16日	H24.1.24~ H24.1.30 ※授業中に実施の場合もあり

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
福岡大学	政治学原論	廣澤 孝之	現代政治理論について概説する。権力論、政治指導、政治意識論、公共政策、政治制度論などについて、できるだけ明解に説明していくことにする。		本学では、2年次配当科目だが、1年生でも受講可とする。政治学をこれまで学んだことのない学生は、3、4年次での履修が望ましい。	若干名	4	【前期:週2コマ】 火曜日2時限 水曜日1時限	4月12日	7/26③
	経営戦略論	合力 知工	経営戦略を策定するための「モノの見方」を学び、ケーススタディを使って、経営戦略のあり方を体得する。	2・3・4年次	特になし	10名	2	【前期】 木曜日2時限	4月14日	7/28①
	特別講義A 表現する力をきたえる プログラム	田村 馨	「表現する力」とはノウハウではなく、感じる力であり、考える力であり、一歩踏み出す力であることを課外プログラムなどを通じて学ぶ	3年次以上	特になし	10名	4	【通年】 金曜日4時限	4月15日	(前)7/27④ (後)1/19④
	経営組織論	三浦 隆之	企業を組織デザインする際の基本的な課題として、労働力、原材料部品、生産設備、商品デザイン、広告宣伝などの生産諸要素を市場取引からどのように、そして、どの程度内部組織に取り込むかについて考える。後期の企業行動論に続く。	2年次以上	特になし	若干名	2	【前期】 金曜日2時限	4月15日	8/2④
	企業行動論	三浦 隆之	前期の経営組織論の受講を前提にして、収奪可能な準レントの作用、スラック革新の可能性、ストック・オプションの功罪など、企業行動上の重要概念をモチベーションやイノベーションに絡めて考える。	2年次以上	特になし	若干名	2	【後期】 金曜日2時限	9月16日	1/25④
	貿易特別講義A	木幡 伸二	ロシアや中国などは、社会主義国から資本主義国へと経済体制を移行させた或はさせつつある「移行経済国」です。これらの国々は大きく発展し、世界経済への影響力も大きくなっています。この講義では、「貿易特別講義B」と共に、この「体制移行」という問題について検討します。 主な内容は、体制移行に関する概念的枠組み、体制移行の歴史的背景、体制移行の理論的根拠及び体制移行の過程に考察する予定です。	2年次以上	シラバスの「履修上の留意点」については、他大学の学生には適用しません。	若干名	2	【前期】 木曜日5時限	4月14日	7/27④
	貿易特別講義B	木幡 伸二	ロシアや中国などは、社会主義国から資本主義国へと経済体制を移行させた或はさせつつある「移行経済国」です。これらの国々は大きく発展し、世界経済への影響力も大きくなっています。この講義では、「貿易特別講義A」と共に、この「体制移行」という問題について検討します。 主な内容は、体制移行が移行国に何をもたらしたのか、体制移行ではなぜ民営化が必要なのか、体制移行に付随して現れる腐敗現象とはどのようなものか、及び、体制移行はどのように評価すべきかについて述べます。そして最後に、「移行経済国はなぜ資本主義に向かって脱走するのか」について、自らの考え方を述べたいと思います。	2年次以上	シラバスの「履修上の留意点」については、他大学の学生には適用しません。	若干名	2	【後期】 木曜日5時限	9月15日	1/19④

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
福岡大学	経営管理概論	藤野 真	経営管理では、企業経営において、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源をいかに管理する(有効利用する)かということが問題とされます。経営管理概論では、経営管理のなかでもとくに、生産システムの生成とその発展、および生産システムの現代的課題を検討する。	2年次以上	経営管理概論について意欲的に学習する意思がある学生の受講を希望します。	若干名	2	【前期】 水曜日1時限	4月13日	7/30④
	経営管理論	藤野 真	経営管理論では、現代に至るさまざまな管理論を概括すると同時に、それら管理論が提起された理由を社会・企業(資本主義経済における企業)・組織・人間(人間観)に注意を払いながら学習していきたいと思ひます。また、それら管理論の発展の方向とその意味について考えていきたいと思ひます。	2年次以上	経営管理論について意欲的に学習する意思がある学生の受講を希望します。	若干名	2	【後期】 水曜日1時限	9月14日	1/22④
	環境経済学	今泉 博国	地球環境問題や地域の環境問題など、深刻な問題が山積している。これらの問題を将来世代に先送りしないため、早急な解決策が求められている。現在、「環境税」や「排出権取引」のような経済的手法が、大きな関心事となつてきている。そもそも、環境と経済は密接に関連しているのだ。 本講義では、現実には起している諸問題を題材に取り上げ、環境問題に対し、経済学がどのような役割を演じているかを平易に解説していきたい。	3年次以上	特になし	若干名	2	【後期】 火曜日1時限	9月20日	1/20⑤
福岡歯科大学	コミュニケーショントレーニング	口腔保健学講座口腔健康科学分野准教授 町田弘幸	創造性・協調性・多様性理解など、円滑なコミュニケーションに必要ないくつかの方法を、実践を通して理解し、身に付ける。	1年次以上	特になし	若干人 (各大学 10人以内)	1	土曜日昼間 10-11月 240分(3コマ)×4日	未定	試験なし
	福博の歴史と文化探訪	機能生物化学講座感染生物学分野教授上 西秀則	この科目は我々が現在生活しているこの福岡・博多の地域について考え、知ることを目的とした講座である。福博の歴史と文化、自然などをさまざまな角度から考え、学んで生きたい。この講座で学んだことを通じて、現在から将来にわたって自分を取り巻く地域や社会とどのように関わり、貢献できるのかについて考察する。	1年次以上	特になし	若干人 (各大学 10人以内)	1	4/21-5/26 講義毎週木曜5限 (16:10~17:30) 80分×5回 現地見学土曜 (4/23、5/14、21) の3回	4月21日	試験なし

平成23年度 単位互換科目・共同開講授業科目一覧

開講大学	科目名	担当教員	内容	対象者	履修条件	受入可能人数	単位	開講形態 集中・土日開講等	授業開始日	試験日
九州大学 西南学院大学 中村学園大学 福岡大学 福岡歯科大学 (共同開講授業科目)	博多学	【九州大学】 佐伯弘次 教授 菊地成朋 教授 【西南学院大学】 磯望 教授 高倉洋彰 教授 中村奈良江 教授 【中村学園大学】 松隈紀生 教授 【福岡大学】 渡辺亮一 准教授 【福岡歯科大学】 上西秀則 教授	シラバス参照	学部1年次以上	特になし	各大学 30人以内	1	集中講義 (12時間講義+実地見学)	現地見学 土曜 (4/23、 5/14、21) のいずれか 1日 6/11,18,25 の集中講義	試験なし

※ 九州大学の各キャンパスの所在につきましては、<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php> をご参照ください。